

発注者綱紀保持委員会（第1回定例会議）

開催日及び場所	平成18年3月20日（月）東北地方整備局大会議室
出席者	委員長 森永 教夫 局長 副委員長 成瀬 進 副局長 副委員長 田中慎一郎 副局長 委員 小野寺信一 弁護士 委員 内田 貴和 公認会計士・税理士 委員 遠藤 孝夫 東北学院大学教授 委員 佐々木恒美 河北新報社編集局次長兼報道部長 委員 音瀬 均 総務部長 委員 山田 篤司 企画部長 委員 森 義一 建政部長 委員 篠原 正治 河川部長 委員 南 哲行 道路部長 委員 遠藤 淳一 営繕部長 委員 松島 寿 用地部長

定例会議議事概要

意見・質問等	回答
発注者綱紀保持委員会が設置されるまでの経緯及びこれまでの綱紀保持対策の実施状況について	
なぜ談合が発生したのか、実態、原因に対する認識が一番大事な点であり、検証なしには効果的な策はつukれない。	国土交通省入札談合再発防止対策検討委員会で検討され、取りまとめられた入札談合再発防止策について説明 鋼橋上部工事の談合事件の発生の反省を踏まえた契約制度全般にわたる見直しについて説明 包括的な対策を講じていることを説明
今回の談合の発生原因に対する問題認識は如何。	
発注者側のコンプライアンスがどれだけ重要なのか、受注者の問題なのか、実態の調査分析によって対応策がでてくる。	

意見・質問等	回答
<p>東北地方整備局発注者綱紀保持規程（案）について</p> <p><u>規程のポイントはなにか。</u></p> <p><u>この規程をつくることによって、今までの発注者側の行動にどのような変化がおこるのか。</u></p> <p>いくら規則を作って公務員の就職を規制しても、抜け穴があって制度が機能していない。</p> <p>本格的に談合を防止を図るよう対応して頂きたい。</p> <p>総合評価方式など金額だけではない発注方式も談合の抑止効果がある。</p> <p>コスト意識をもって発注業務を行っていくことが必要である。</p> <p><u>契約システムの仕組みの見直しが必要である。</u></p> <p>談合なくす一番有効なものは一般競争入札の拡大につきる。</p> <p>損害賠償とペナルティを厳しいものとする必要がある。</p> <p>発注者側の問題として、一番効果的なのは天下りの規制である。</p> <p>1ヶ月の指名停止では企業にとってはぬるい、損害賠償などペナルティの強化をすべきである。</p> <p><u>総合評価方式は、運用のあり方で既存業者の温存、新規業者参入規制となるので留意されたい。</u></p>	<p><u>新たにコンプライアンスのルールをつくること及び遵守させていくについて説明</u></p> <p><u>入札契約手続きの透明性を高めることについて説明</u></p> <p><u>業者への効果について説明</u></p> <p><u>体制の整備について説明</u></p> <p><u>東北地方整備局での一般競争入札の拡大について説明</u></p> <p><u>違約金が高くなるなど厳しくなるペナルティについて説明</u></p> <p><u>勸奨年齢の引き上げについて説明</u></p> <p><u>東北地方整備局総合評価委員会での学識経験者からの意見聴取について説明</u></p>